

平成 26 年度第 2 回恵那市総合計画審議会

日時：平成 26 年 8 月 6 日（水）

午前 9 時 30 分～

場所：岩村コミュニティセンター大ホール

1. 会長あいさつ
 2. 市長あいさつ
 3. 会議の公開、公表について（確認）
 4. 議題
 - (1) 理念・将来像に関する委員アンケート結果について
 - (2) まちづくり市民会議の結果について
 - (3) 理念（案）・将来像について
 - (4) 総合計画策定プロジェクトチームメンバーについて
 - (5) 総合計画策定部会の設置について
 5. その他
 6. 全体会閉会
 7. 総合計画策定部会編成
-

欠席委員 近藤慎平 鷺見則幸 樋田一成 野田光子 堀鑛 山本好作 渡邊鉦文

1. 会長あいさつ

■会長 第1回からテンポが少し早いですが決めるところは決めて進んでいきたいと思っておりますのでお願いします。

2. 市長あいさつ

■市長 みなさん、おはようございます。早朝から会議を開催したところ、出席していただきありがとうございます。本日は第2回の総合計画審議会ということで、まちづくり市民会議を7月26日に開催しまして、62名の方が参加されました。他の公務があり出席できませんでしたが、報告書を見ますと活発な意見が出まして、医療、子育て、教育、雇用、定住というようなところに多く意見が出たようです。それを踏まえて総合計画にどのように反映していくかのご意見をいただければと思っております。今日は副市長、教育長のほかに各部長が来ておりますので、会議の中でご質問がありましたらお答えをさせていただきます。

3. 会議の公開、公表について（確認）

4. 議題

■会長 それでは、議事次第に従って進めます。本日は、5つの議題があります。それらについて、事務局より説明を受けたうえで、意見交換をフリースタイルで行います。よろしくお願いいたします。

皆さんのからの意見として、委員と委員との間で、もう少ししっかりディスカッションしたいという意見もお持ちのようです。それについては、意思表示していただいて、自分が発言したいときは順番を待つのではなく、発言していただけたらと思います。

(1) 理念・将来像に関する委員アンケート結果について（資料1）

■会長 それでは、議題の1。資料1に基づいて「理念、将来像に関する委員のアンケート結果」について、事務局から紹介をお願いします。

■事務局 資料1の説明

■会長 事前に資料配布しており、お目通しいただいていると思いますので、この議題1についてご意見があれば、お伺いしたいと思いますが、よろしいですか。

それでは、もう少し報告事項。今の件については、議題3に連続しますので、そこでまた、発言を必要であれば伺ってください。

(2) まちづくり市民会議の結果について（資料2）

■会長 それでは、議題の2に進行させていただきます。資料2に基づいて、先日開かれた、まちづくり市民会議の結果について、ご報告、お願いします。

■事務局 資料2の説明

■会長 これにつきましても、事前に目を通していただけたと思いますので、必要であればご意見をお願いしたいと思います。

私もまちづくり市民会議には当日、立ち会い様子をお伺いしましたが、3時間弱だと思いますが、参加者の方々には非常に熱心にいろいろな議論をしていただけました。会場に盛り上がりがあったように思います。

それと、全体の印象としては、恵那の良さというか強みのようなところでの話をされる中で、自然だとか環境、もう一つは人と人のつながり、絆については、やはり継承したいという思いがあり、参加者から伝わってきたように思います。恵那の良さを、さらに磨きをかけるべきであるという意見があったと思います。一つはそういう暮らしているために、従来の良さをさらに磨きをかけるという、そういう趣旨のことを20代、

30代、40代の人たちはお考えになっている気がしました。

それからもう一つは、今後の少子高齢化とかそういうことを考えた場合に、本当にこれもやっていけるのかという不安のようなものを併せ持つておられるように思います。

そういうものを否定的に考えるのではなくて、たとえば医療、介護などを自分たちの力で、行政に頼るだけではなくて自分たちもいかに協力をして参画をしてやっていく必要があるというお考えが強調されていたように思います。

それと集いの後に、地元に戻られて地域協議会などで報告会というように、協議会のメンバーとか会合などもあったようでした。

参加者とお話する機会がありましたが、もっと次世代を担う同世代の中でグループをつくって、横のつながりをつくって、恵那を担っていかなければならないという集いをこれから少しずつ強めていこうじゃないかということのを伺いました。

まさに、そういう動きが出てきたということは、すごく良い集いであったと思っています。こういう集いが、市全体の総合計画を検討する場や、それぞれの地域自治区内でも議論が展開されると、良い総合計画ができます。

あるいは計画策定のみではなく、それを担っていく、動きをつくりだしていくうえで、大変、大切だなということを実感しました。

何かコメントとか、ご意見があればお伺いしたいと思います。

■委員 まちづくり市民会議に、傍聴として参加させていただきました。とても素晴らしい会議で、活気があって、今の若い人はすごいエネルギーを持っていると感心しました。

一つ、この会議の際に託児があるということを知りまして、すごい視点で行われたと思いました。若い人たちをこういう会議に参加いただくためにも、周りが条件整備みたいなものをきちんとしないとやっていけないなと思いました。

ぜひ、市長にも聞いていただきたいとも思いました。

■会長 こういう集いは、今回だけではないので、第2回も続けていきたいと思っています。本日の最後の議題になっている部会の編成をしたら、必要なときには、オブザーバー的に次の世代の人の意見も聞くような部会の運営をしていただければと思います。

総合計画全体としては、1回、2回という程度ですが、随時、次の世代の人の意見をしっかりと取り入れた、全体の会議も運営できればと思っています。

(3) 理念(案)・将来像について(資料3)

■会長 では、議題を進めていきます。前回の議論と、今回の市民会議等々を踏まえまして、資料3を提案させていただきます。

「理念、将来像について」ということで、皆様のお手元に配布・事前にお配りしたものの中には、一番上の表題のタイトルが抜けています。その上でご意見を聞いたほうが良いという思いが私にもありました。では、事務局より、説明をお願いします。

■事務局 資料3の説明

■会長 第1回目と若干違っていきまして、1回目のときには、「安心・快適・元気・成長」という、4つのキーワードが考えられるのではないかと提案をさせていただきました。今回は、もう少しやっぱり市民会議や、いろいろな議論を聞いて、もう少し大きくくくって議論したほうが良いと考えました。「安心、快適・元気」で、「成長」というのはどうかというような、事前の委員からのアンケートなどのご意見もありましたので、これからの成熟社会の中で、自分たちが目指すべき方向はどうか。だからといって、先細り感ということではいけないので、先ほどお話したように「あるものに磨きをかける」という意味合いで、やはり「元気」というキーワードを提案するように準備を事務局にお願いしました。

そういう思いを込めてトータルの姿ということで、市民会議等々や皆さんのアンケート

トを見ていると、やはり地元に対する誇りとか愛着についての自信・自負心をお持ちで、そういうものはしっかりと表現するという事です。

それからもう一つ、市民会議等々で見ていると、やはり自分たちの地域で、それぞれの個性や多様性を持つ、多様な意味合いでの地域の魅力があるということです。これから「人・自然」で、第1次総合計画の場合は「調和」というキーワードになっていましたが、一体感や自然との共生だけではなくて、やはりそこで暮らして元気に過ごすという意味を含めて「輝く」というようなニュアンスをつけさせていただきました。

地域を3番目に強調していたのは、地域のことは地域でしっかりやっていくという意味で、地域というキーワードは欠かせないなというような思いがあります。

事務局からの説明のようにあったみたいに、資料3のことを審議会で決めて、これから施策を示す次の政策とか基本計画を議論する必要があります。

理念、コンセプトが資料3になって、それを決めて、どのように実行していくかという行動計画の議論に入っていくという流れになります。

できたらきょうの会議で、認めていただいて、年末ぐらいまでに開かれる準備をしている地域や市民会議を全て終わらせて、もう一度、年末ぐらいに、本当にこういうスローガンでいいかという会議にかけたいと思っています。

大きく皆さんの思いと違った表現になっているということでなければ、できましたらこの場で承認いただきたいと思います。ご意見ありませんか。

■委員 この審議会や、若者の先ほど紹介があった会に出られる方は、それぞれ「ああ、こうしていきたいな」という気持ちは当然あると思います。

しかし、会議に出られない方は恵那市が進む道はどういうことを思っているかという、「私たちは何をしたら恵那市、地域に、そして家族、自分自身のためになるかな」と、これが恵那市をつくる鍵になると思います。

この会議で総合計画の理念とか、安心とか活力、快適だとか、お題目はいいと思いますが、実際に個々に聞いてみると「恵那市の道はそうなの」と。民衆がやることと、行政がやることは、やっぱり相反するものがあると思います。

だから、総合計画は、たとえば住民の方が考えることと、行政ならどうしたら住民の答えが出せるのか。たとえば教育では、国民全体を見てもワーキングプアが見られますよね。そういうのはなぜ、起きるかという過保護で、大人が甘やかしていますね。だから、恵那市はこういう総合計画で教育をしっかり先導するというのであれば、それがまちづくりになると思います。

■会長 そのほかご意見、ございますか。

■委員 今のご意見にも関連しますが、今回、我々委員が、この段階で意見を求められて、じっくり考えて意見を書けたと思います。そういうものを皆さんにご意見を拝見して、今後の審議会の進め方でもいきなり「このテーマについて、皆さんどう思われますか」と言われても、我々常時こういうテーマを考えているわけではないため、深く考えられない。何が問題なのかということも考えられないということで、こういうアンケート方式など繰り返しかえしやることが良い方法と思います。

それから、いろいろ市民の意見を聞くのは良いことですが、意見を尊重しながらも、今の時代は世の中の構造そのものが変わっているわけで、将来の方向を市民一人ひとりに聞いて出てくるとは思えないです。

たとえば日本が本当に戦後、5千万の人口から1億2,500万まで人口が増えたのが、一挙に少なくなる。人口爆発の時代には、すべて地方都市も含めてスプロール現象が起きて、施設も地方に展開していった。人口が大幅に減少するときには、もう一回、本当に社会資本というだけではなくて、すべての面から効率を中心として集約するか。

はたして、集約の段階で、すべての学校を統合することなどは、一番基本の地域連携の基盤が壊れてしまいますので慎重にやるべきだと思います。コンパクトシティという

コンセプトを考えた時に、どうしても考える必要がある。

要するに、時代がこれだけ変わっているわけですから、改革という視点が全体的に薄いと感じる。これは市民に聞くというより、本当に企画するほうで、しっかりとした考えをベースに持っていないと、本当に何か散漫で総花的になると思います。

■委員 昨年一度終わりました、「リニアまちづくり（構想）市民委員会」のときからずっと感じていますが、基本的にこういう計画は前しか見ていないですよ。今回も問題意識がいったいどこにあるのかということが非常に見えてこない。

たとえば、人口減少ですとか、財政の逼迫ということは示されていますが、あくまでも表面上の問題であって、時代がどんどん変わっているわけです。どういうふうに変わっているかというようなことには、一切触れられていないことが、非常に奇異的な感じがしてしまう。

これからの10年間というのは、予兆がなく大きく変わってしまう可能性があるわけです。この中に一つだけ、ぜひ入れていただきたいのは、放っておくと明らかに格差社会が広がってしまう。全員の方がお気づきだと思いますが、たとえば10世帯に一人は引きこもりの方がいます。10%弱ですか、発達障害の人がいらっしやる。そういう方々がどんどん成長して、包摂型の社会として恵那市が機能しないと、どんどん格差が広がる。そういうことを正面から見て、その課題に対しての総合計画でないと、総花的なものになってしまうような気がしております。

本来は、課題は何なのかということと、グローバルな見地も含めた社会の変化が、どうなっているのかという共通認識を持たないと、本当の意味での総合計画ができないかと思っております。

■会長 そのほか、ご意見は。

■委員 私も今のご意見と同様の心配をしています。現実には私の周りの若い人に聞くと、経済学でいうところの「足による投票」によって市町村を選ぶ現象がすでに起こっています。

たとえば、通勤・通学圏である名古屋へ通う人は、行政サービスが中津川の方が良い場合には中津川に住もうじゃないかということが、現実には起こっています。今までの負の遺産がそのままほったらかしになっておったとは言いませんが、もう少しそのへんを謙虚に考えながら、今後どうするかということも一つの考え方と思います。

「足による投票」なんていうことが現実によく出てくると、これはまさしく都市間競争になってくるわけです。こういったことも必要であるし、先ほど委員長がおっしゃった「あるものに磨きをかける」ことも、一つの手法だろうと思いますが、こういったところがやはり前面に出てくる必要があると思います。

■会長 教育についての課題、市民会議でもいろんな提案、問題点指摘されています。それは多くは施策というか、たとえば「教育分野をこういうふうにやっていきますよ」ということを考える段階で、具体的な議論が行われれば良いと思います。それは、そういう段階では施策、分野の在り様、そこでの議論で深めれば対応できるかと思いました。

課題の明確化、時代的な変化・潮流について共通認識のようなものをどう持つかという点は抜けていますね。全体の流れが「人口減少社会にどう対応するか」ということと、「今後、厳しさを増す財政事情に対してどう対応するのか」ということですね。基本的には、その二つに今後10年どう対応しながら、次の世代が住み続けられるまちをどうつくっていくのか。今回の第2次総合計画は、そういう問題意識でつくられていると思いますが、それだけで足りるのかということですね。

そういう時代状況、人口減少などの問題と同時に、地域の内部で進んでいる社会問題の予兆のようなものに根本的に手を打つ必要があるのではないかと指摘だと思います。

■委員 トヨタ自動車は、「来年度、国内生産を減少する」と発表しました。トヨタは最後まで頑張ったけど、そういう状態です。マツダに至っては、おそらく国内生産の7

割をメキシコへ持っていく。

もう完全にグローバル企業はどんどん外に出て行く、国内はどんどん疲弊していく。そういう中で、どうしたらいいかとかいうことを真剣に話さなくてはいけないのが一つ。

もう一つは、アメリカで顕著ですが、アメリカという社会は7人に1人が「食料配給切符」で暮らしています。新しいアベノミクスの給付金やっていますけども、だいたい20%ぐらいの世帯が住民税非課税世帯です。だから、猛烈な格差が広がっている。こういうところに来ている方は、その上のほうにいる方だからわからない。

本来は、困っている人たちの意見をきちっと聞いて、いかに吸い上げるシステムをつくるかというようなことにならないと、見ると明るいが全く問題解決ができないような総合計画になると心配しています。

■会長 いかがですか。それこそ、委員のそのご意見はテーマだと思います。

■委員 私でも、子どもたちでも、理念とかは「上が言うてくることで、自分たちとは、また次元の違うことを言っているけどいいの？」って言うことがあります。

考えてみたら10年後というのは、私の一番末っ子が二十歳になるときで、社会人としてやっていく時期です。

実現性が低い意見かもしれませんが、よくも悪くもネットで、子どもたちはインターネット、LINE、Facebook、Twitterなどで情報を共有し合っています。たとえばそういうので、「恵那市の総合計画の理念」というのを、みんなはこういうまちをつくりたいと思っているというのを、カジュアルに意見を出せるようにする。

中学生、高校生、大学に行く子もいますけど、本当に格差社会というか、中学に訪問するとびっくりしてしまう。クラブにしても親が手をかけないと、もう今は中体連も勝ち抜けない。昔だったら、普通に部活に入れば学校の先生たちが面倒見てくれた。今は学校自体にクラブをする時間がないので、朝の10分だけとかで、結局は親が組織したクラブをつくって、そこに入って練習した子が強くなっていく。

勉強もそうで、恵那高に入った子たちは進学塾に通った子が半分以上いる。結局、お金をかけないと入れないのか。普通の親が「申し訳ないけど、クラブに入ると親の負担がかかるからやめて」という人たちも知っていますし、そういう子たちはクラブ頑張ろうとしても頑張れなかつたりします。

そういう子たちが、立派な意見を出されて、こういうことをしますと言われても、ピンと来ないと思う。でも、そういう子たちがたぶん6割、7割いると思います。

市長さんが中学生の話聞くということですが、学級委員や生徒会長をやっている子たちの意見が多いでしょうが、私は普通の子たちの意見を取り上げたいと思います。その子たちの意見から面白いことが出てくるかもしれない。できれば、みんなに行き渡るような形で「これから恵那市はこういうこと、こういうこと、こういうことでやっていきたいと思うけど、みんなはどう思う？」というのを、簡単に書き込んでもらおう。実際には書き込む子は多くないかもしれないですが、「あっ、そうか。こういう考えがあったんだな」とか、「これはいいね」ということを取り上げてみたいし、それを見ることで「今の子どもたちはこんなふうに思っているんや。こんな危機感があるんやな」ということで、参考になると思います。

理念を決めるところからは離れるかもしれないですけども、そういう若い子の意見を広く集めることで決められたらいいなと思います。そのやり方の中ではアンケートがあったり、インターネットを活用するのも、一つの方法かなと思います。

■会長 今のご発言への対応はできると思います。だから、その一つとして、まちづくり市民会議をワークショップという形で3時間をかけている。これは数回やる。でも、同じようにこれから地域計画をつくっていきますので、地域の内部、地域へ下ろしたときには、同様の手法を用いて展開すれば、地域で100人という議論も可能になる。

どこまで展開できるかわかりませんが、そういう流れの中でやってきたい。それから、従来ですと、市民アンケートという形で皆さんに答えていただいていた集約している。それを記入するのは若い世代が少ないこともあり、要するに次世代者という切り口で、条件付きのような感じで市民会議は開きました。だから、

今のご意見は、中学生やもっと若い人たちをとという意見でしたが、市長さんも高校生たちと意見交換を行っている。地域の議論するとき、若者の参加も次世代の人と同じように地域協議会で工夫をしていただくことができる。あるいは、冒頭にお話しました、これから部会をつくりましたので、そこで教育問題のような議論をする機会があります。

門戸を閉ざしているつもりは全くなく、むしろ開いていく方向を模索しています。

■委員 すいません。去年、部会で感じたことですが、それぞれ部会に分かれてしまうと、「私は福祉のほうへちょっと行ってみたいな」ということがあっても、産業部会で意見交換することになる。

要はもう結局、ガラガラポンで、こういう「安心・活力・快適」ではなくて、みんな本当に何がしたいということを、審議会ですっかり方向性をつけることにより、恵那市の未来像というのがしっかり見えてくると思います。

■会長 何をするにしても、たたき台というのが必要で、今回はだから、たたき台を議論させていただいている。3つの部会の中で議論をして、どうしても駄目で4部会にする必要があるというご意見でしたら、第4部会を設立するなりということについては、皆さんにご相談していることです。

とにかく作業をやっていないと、現場の意見を聞くことも動きながら聞かないといけないものですから、動くためにはいつも総論だけでもいけませんので、詰めた議論をするために部会をつくって議論をしていただきたい。一歩前に進むということで、きょうは合意していただければと思っております。

提案した枠組みにこだわっているということではなく、冒頭にお話しましたように、もし積み上げてこられて、「こういうキーワードのほうがいい」とか、「こういう表現のほうがいい」ということであれば、再検討の余地があります。

審議会の運営の仕方とか、分野の政策のこういう観点を盛り込んでという議論は、かなりできると思います。一方で言われた、時代の変化のようなもの、それについての議論を少し聞きたいです。

■委員 将来の目指すこの文言については、さまざまな会議を経た上で、全体的な意見集約の中でこれに付け加えるとか修正をするのか、そういった考え方があることについては、そういうことでもいいのではないかと考えています。

それぞれ出された3つの分野の課題があるわけですが、その部会の中で中心には具体的な提案をなされると思いますが、ほかの部会にかかわってくるものがありますよね。3つの部会になるか、4つの部会になるかわかりませんが、部会の中で専門的に内容を議論していただきますが、必ず他の部会のところに関連して出てくる課題が出てくるわけですので、そここのところは、必ず関係する部会に反映をさせていくというような進め方でいったらどうかと思います。

■会長 その思いは、一緒です。まさに集合みたいに重なっている部分ということですよ。部会で決めたから、それでもう決まったということではなくて、また全体会議の中に戻して議論する往復作業は当然必要であると考えています。

■委員 ある部会は右肩上がり前提にした考えが集約された。ある部会では右肩下がりを前提にした考えが集約されたとなったら問題ですよ。これからの社会、たとえば「明らかに右肩下がりになる」とかいう基本的なことを押えてから議論しないと、混乱する可能性があります。

たとえば、今の若者がダラダラしているという話がありましたが、我々の世代までは頑張れば必ずその果実がありました。ところが、今の若者は、頑張ってもどういふ果実

が得られるのかということに不安に思っており、頑張りようがない。世代間の相違というのは10歳刻みぐらいで、大きな違いがある。

明治以降、日本というのはずっと激動期が続いているわけです。我々自身が、今のこの時代をまだ咀嚼していません。だから、次の世代に伝えられない。ものすごく大きな世代間のギャップがあるので、特に今、若い人がどういうマインドでいるかというのは、十分承知したうえで教育問題を扱わなければいけないですね。

だから、そういうあたりの合意をつくってから、それぞれの部会にいかないと、ぐちゃぐちゃになってしまうのではないかという気がしております。

■委員 今回の意見に私も賛成ですが、第2次総合計画は計画期間10年というのと、ある面では長期計画ですね。

■会長 そうですね。

■委員 第1次総合計画の時代と、今の第2次総合計画、これから向こう10年を考える時代の社会の時代変化というのはどれだけ起こっているんだろうということは、なかなか見えていません。人口とか統計的にある程度見える部分もありますが、質的な部分が誰にも分らないのが一番悩みだと思います。

積み上げの議論をしますと、どうしても日常の生活とか、過去の自分の軌跡を考えて「なんとかそれを維持したいな」という、現状を伸ばして考えるのは人間の本性だと思います。

話は飛躍しますが、最近2030年というアメリカの元大統領しか見られなかった「世界の予測」というルールがありました。その中の一つだけ例をいいますと、日本がバブルでわいていた1980年代というのは、日本の経済力は世界のGDPの12%ぐらいあったと思います。それによりますと、2030年はたしか2%であると思います。

内側でものを見ているのと、外からものを見るとでは、全く違って見えるというところが、アメリカの戦略だと思います。どうしても積み上げの議論だと、今の生活の良いところを延長したいというところが優先して、大きく税収が減少する、限界集落ができてしまう現実の中での本質的な答えが見えない。

コンパクトシティなんていうような考え方も入れながら、やっつけていかないと、今のこの草案の段階では、第1次総合計画と第2次総合計画の本質的な違いが残念ながら感じられない。

それではどうやってやるかということですけど、大衆でワイワイ議論してできるものでもなくて、ある程度客観的に見て方向を「こういうことが起こり得ますよ」ということを、一つのまとめとしてまずある。それを考えながら、それではなんとか、今のいいところを、今までのいいところを延長していくと、答え合わせしていくというような方向しかないのではと思います。

■会長 たとえば人口が減少するにしても、伸びが止まって下がってくるというのと、10年後、20年後には、たとえば私もそうですけど、もう60過ぎていて、生きているか分からない時期です。地域全体として社会がもっているインフラ、住居などもそうですけど、その在り様が、従来は建てる、建て替えるっていう感じのものから、発想の転換が必要だということをだいぶ言われてきました。

政府でも、人口減少をみんなが議論して、中山間地で定住自立圏というものを言い始めたのは3、4年前のことです。それに合わせてコンパクトシティという議論がされていきました。つい最近では、コンパクトシティとネットワークということで、地域連携、地域間連携の在り様を含めてもう少し考え直したらどうだという問題提起もされています。

今までどちらかというとハード面、もちろん生活圏のようなものをどう準備するかという問題意識で行政が進められてきました。今までのご意見では、さらに、そこに人間の成長の発達段階とか人間社会の在り様という問題も付け加えて考えるべきというこ

と思います。

それはその通りだと思いますが、それについて合意して「一つ、こういうことについて考えましょう」というようなことについて今日の議論でまとめて、もう一度、部会長、部会の会長会議みたいな会議を開いて共通認識の確認する段取りにしましょうか。

■委員 恵那市は多治見と同様に将来は消滅する都市だと、日本創生会議が示しました。伊豆市は大きなスーパーが廃業になり、若い女性が職を失ったとのこと。その女性たちはみんな東京へ仕事を求めて行きました。その若い女性が東京へ行って、そこで生活をする。東京というのは出生率が一番低いですね。それで、女性が東京に行った後の伊豆市は、だんだん人口が減少し、まち全体が疲弊してきたということです。

そのことで、恵那市にはスーパーはたくさんあり、一方で、人口減少していますね。そうすると、どこかスーパーが淘汰されていく。すると、職を失いストロー現象のように若者が流出していく。もうそのことは明らかだと思います。

この総合計画というのはそういうことを予測しながら、もっと危機感を持って検討するべきではないかと思います。はたして部会での検討まで早く持って行っていいのかどうかというのは、私も皆さんの意見に賛成をいたします。

■会長 そのほか委員、いかがですか。

■副会長 日本が少子高齢化で厳しい状況の中でどう生きていくかということで、そのへんの将来はもう明らかなことです。それにどう対応するかということで総合計画を作らなければならないということは、当然です。

恵那市は日本創生会議の予測で消滅する地域に入っているわけですが、私は必ずしも、すべてがそのとおりにいくものではないということは、時代を見れば明らかだと思います。大きな流れは変わらなくても、その中でその地方が、いかに自ら生き延びていくかということの一つの指針が、この総合計画にあるべきと考えます。

将来のない、夢のない時代で若者が職もないという発言がありましたが、うちの隣にも名古屋から娘さんが一人来て、農業の好きな子が頑張っています。自然農法みたいですので大した作物はできないですけれども、職場に出してくれています。それによる所得はほんのわずかです。ですから、生活はしていけないものですから、温泉でパートで働きながら生活しています。

自分の生き方として、自然の中で好きな農業をやれば、所得は少なくとも喜んで生きていけるような時代ですので、500万だ、600万だと稼がなくても、東京とか都市で多くの所得を得なくても生きがいを持って生きていける。そういう若者なら生きがいを持って生きることができる都市にする方向が考えられます。

定年後も「田舎で住みたい」というような、率的に少なくとも、串原にかなりの人が越してきています。そういう人も一昔前に比べれば、かなり増えているのも実態です。そういう若者が伸び伸びと生きていけるような市を一つは目指すということが、まずはこういう中で、うまくマッチングできれば良いと思います。

■会長 そのほか、ございませんか。

■委員 右肩下がりか考えるのか、右肩上がりか考えるか、そのところの見方が違うのでは。

■副会長 右肩下がりでも、こういう若者が出る確率は高い。

■委員 消滅するから、夢のない恵那市にしろということではなくて、夢のある恵那市にするためには、課題があることをどう克服するのが大事だと考えています。

■委員 恵那市が各町13地域のいろいろな味があって、それで合併して10年やってきた。長野県なんかほとんど合併してなく、町村が残っています。そういう意味では、恵那市は合併時につくった地域協議会を中心にした地域の制度を少し論議の中に入れる。先ほどの串原や上矢作は、本当に人口厳しいですけれども、そういうところで地域をどうしていくかという方向があって初めて計画づくりができると思います。

そういうまちの視点、地域の視点みたいなものを、この「安心・快適・活力」の中で、切り口として「この地域で、じゃあ、安心のこのテーマはどうなんだろうか」とか、検討の切口にする。今の13地域の共同体みたいなところが、どう何が良くて、どこを補強していけばいいのかという論議を、審議会のみではなく地域の意見と交流できればいいなと思いました。部会というふうに単純にやるのではなくて、その中でも地域の課題が少し入っていると良いです。

■会長 今のご意見の方向に行きたいと思っています。審議会を全体会議だとさせていただければ、その全体会議にも前回と今回で出た意見を基に、地域に何かのたたき台のようなものを示さなければ、総花的になってしまいます。総花的になれば、残念ながら財政事情も含めて検討することができません。

地域が生きていくためにはいろんな要素が必要だということはわかりますが、それぞれに対して手当をするとか、それぞれを全部伸ばすということは、なかなか財源的にも、行政職員等々の人材的にも手が回らないという状況にあるわけです。

そうなったときに、地域が本当にこれがあればやっていけるというものを、できるだけ選択と集中しながら地域でやっていくべきです。

そうすると、結果として地域としては、Aの分野に、ここの地域はBの分野でと、多様な地域というのが出来上がってくる。

では、バラバラでいいのかというと、そんなわけではなく、それをネットワークさせるということが必要です。総合計画は、それをネットワーク化させる議論の場としたい。なので、地域の中に入っていくとか、地域の中におろしていく作業にかからせていただきたいと思います。

それから、市民会議で62人来たという、良い取り組みだと思いますが、数万という人たちが背景にいます。たとえば介護のサービスを受けている人たちの意見は、今のところ拾い上げることができていないわけですよ。福祉の議論するとき、たとえば介護なら介護を受けている人、施設の長、介護に携わっているサービスを提供している人たち、民生委員などの意見を聞く場をとると、会議運営上は不効率になります。

分野別とか、そういう段階へ入らせていただきたい。あるいは地域別という段階に入らせていただきたい。そこに、もう一度持ち込んできたうえで、これは本当に確信の持てるようなものを作り上げてきて12月ぐらいに、ここの場でも再確認をして総合計画を作りたいと考えています。

■委員 大変申し訳無いですが、今のご意見は「初めに行政ありき」というスタンスで、市役所が何をやるかということが総合計画であるという前提です。それはそれで仕方がないにしても、百歩譲ってそれを認めるとしても、市役所は「市民の課題を市役所としていかにして解決できるか」という役割がある。単純に、何か行政施策を行うのが市役所であったら、その市役所自体が市民から乖離（かいり）してしまうわけです。

ですから、総合計画が行政施策をいかにするかという計画があることはよいですが、その前に、いったいどういう課題が恵那市にあるのか。恵那市の市民はどういう課題を持っているのが明確にわからない限り、地に足の着いた総合計画にはならないと思います。

■会長 分野別に詰めた部会の議論をして、もう一度、持って帰ってくるということでも駄目ですか。

■委員 それは非常に行政的な発想であって、分野は関係なく「一般市民の方がいったいどういう気持ちでいるのか、何を不安に思っているのか」ということがベースに必要ですね。そこから、「こういう不安だったらこういう分野で解決しましょう」「こういう不安はこういう分野で解決しましょう」というふうになると思います。

■会長 事務局はそうなさいですか。

■まちづくり推進部長 今、ご指摘いただいたということは、どのレベルでそれをご協

議いただくかという話なのですが、この場で議論されるときに情報をどういうふうに私どもが収集し、集約し提供できるかを考えておりました。

今回の作業の段階で、その情報として私どもは、市民意向調査の中から市民の皆さんがどういうところに満足してみえて、こういったところが足りないという情報と、これから第1回目に今の恵那市の人口動態、高齢化の様子などを出しました。

先ほどご指摘いただいたのは、経済の構造の話がされました。いわゆる「雇用の場が日本社会の中で失われてきていますよ」という一つ。もう一つは、「格差社会の中で引きこもり者が増えている。」

その情報を今、私どもがどういうふうに情報を皆様方に提供しないと、たぶん議論が進まないだろうなと思っています。今、その作業を、一方でその引きこもりの方々の情報を得たいということでやっています。おそらくその作業に入る段階でしか出せないだろうなというようなことは思いますが、様々な情報をどういうふうに皆様方に提供したら良いかを含めて、もう一度、ご意見を賜ればありがたいと思います。

■会長 内部の整理だとか問題の指摘はわかりましたが、審議会を年末にというふうにお話をしましたが、もう一度、秋ぐらいの会議で第3回会議を開きますか。

部会は進めた方がよいと思っています。部会を積み上げてきて最後に集約しようと、このように思いましたが、部会によって、たとえば成長を前提にしている部会や、いろいろが発生した場合に、最終的に集約できるのかということの問題提起でもあるかと思っています。

部会で分野別に議論に入るが、そこで本当にじっくり議論をしていただいて、もう一度中間段階で3回目の審議会を開いて、「その問題意識で部会運営をやっているも駄目ですよ」みたいな話も含めて、さらに部会で深め直すことでいかがでしょうか。

■委員 4年前に飯地の、市長さんが回っていただけた会に出て、ヨコミネ式の幼稚園、あの教育、かなり活発かなあということを飯地の会議のときに発言して「一回、勉強してみられたらどうですか」とお願いしました。

今の社会の全体をよく見ると、恵那市でいえば引きこもりをこれからつくりたくないとか、それが僕は目標だと思うんですよ。そういう教育をする必要がある。

要するに、恵那市はもう競争社会じゃない。我々が小さいときから、もし言われたら床屋さんをやるよと。なら床屋を越えてやるという教育。左官屋をやらせる、大工さんをやらせる、それが真の教育だと思います。

だから、恵那市の総合計画というのは、やりたい人を応援する、そういうふうでも良いと思います。たとえば、オランダ式の教育方法でいきますと、みんな将来に向かってやりたいことを小さい時から植え付けています。だから、隣の子が苦にならない。恵那市はこれからどういう教育をすとか、どういう人をつくるとか。人のことを、これは総合計画に一番取り入れていくべきだと思います。

■会長 この前の市民会議でも教育問題についてはたくさん出て、特に次世代者は母親、父親でもあるということで強く出ていましたので、市民の関心は深そうでしたね。

では、もう一度、部会のような感じで3つ分けて少し専門分野的にしっかりした議論を煮詰めていただいて、必要に応じて全体会議を当初予定したよりも途中で挟むという方法もあります。それから地域の問題を解決するということは、異論はありません。各部長も含めて、それぞれの、あるいは市長さんも含めて地域にもう一度入りなおしてみることによって吸い上げて、肌で感じてこなければいけないという問題ですので、地域懇談会というのは、当初から10月、11月ぐらいのところでは予定をしていますので、その作業をもう一度、踏まえて、審議会でも議論することでいかがでしょうか。

必要に応じて、部会と全体会議との往復は、事務局を通じて必要があれば全体会を、当初よりは臨時に開くということもするかもしれませんが、現場に入ってみないとわからない側面もあるので、あるいは、現場で解決の方法も含めて住民にゆっくり意見を聞

く。この前はワークショップという言い方をしましたが、ああいう会合のような形式も含めて現場運営をしてみるという作業に入らせていただきたいと思います。よろしいですか。

承認をいただいたということで、会議を前に行かさせていただきます。

(4) 総合計画策定プロジェクトチームメンバーについて (資料4)

■事務局 資料4の説明

■会長 中堅職員、次世代職員、そういう人たちをところでしっかり議論をしたいという思いで、幹部職員が並んでいることではないようにしてあります。

(5) 総合計画策定部会の設置について (資料5)

■事務局 資料5の説明

■会長 委員の希望をとってやったら、部会にアンバランスが著しく発生したら困るなということ、関係団体というのは、その分野についてそれなりの経験とか知識を深くお持ちなので、そこで頑張っていたいただきたいという意図です。あと地域協議会とか、公募の委員とか市民協議会の方々は、特定分野ということではないので、各部会に割り振りができれば良い。委員の希望に沿いつつ、人数とバランスを配慮したものとさせていただきます。

(異議なし)

地域協議会などについては、どう進めるお考えですか。

■事務局 順番にご意向を聞いて、事務局のほうで調整をさせていただきますので、希望部会のほうを順番にお願いしたいと思います。

(各委員が希望する部会を発言)

■事務局 (会長以外の29名の所属部会を発表。別添名簿のとおり。)

■会長 異存ないようでしたらこのメンバーで策定部会をお願いします。これに行政側のプロジェクトチームのメンバーが入りまして15.16人の構成になります。場合によってはそこではワークショップや市民の意見を聞く等柔軟な対応を部会長、副部会長にはお願いします。

理念、将来像は最終決定でないので、違うキーワードでの意見もあれば検討してください。

部会長のところでは縦割りになっているところを、円グラフの重なっている部分の相互の協力、合わせて一本のところでの議論をお願いします。今後の施策大綱の進め方、その中に全てが行政でなくて住民の自己責任のような議論も積み足さないと、肥大化してそぎ落とすことができないので、どこに集約して、選択するのかという様な緊張感のある部会運営にしていきたい。

■会長 事務局から議題5. その他の説明をお願いします。

■事務局 (その他として第2回まちづくり市民会議の案内。)

(全体会閉会)

7. 総合計画策定部会編成

(部会毎に部会長、副部会長を選出。別添名簿のとおり。)

恵那市総合計画審議会委員名簿（部会別）

平成26年8月6日現在

No.	氏名	選出団体等	安心	快適	活力①	活力②
1	阿部 道長	明智地域協議会		◎		
2	市川 美彦	大井地域協議会			◎	
3	伊藤 保直	恵那市文化振興会				○
4	大嶋 晋一	(一社) 恵那市観光協会			○	
5	大庭 勝徳	山岡地域協議会	●			
6	勝 滋幸	(一財) 恵那市体育連盟				◎
7	桂川 好巳	上矢作地域協議会		●		
8	亀井 邦子	公募委員	●			
9	河原 三次	恵那青年会議所		●		
10	樹神 和昭	長島地域協議会		○		
11	駒宮 博男	恵那市まちづくり市民協会	◎			
12	近藤 慎平	恵那市民三学運動推進委員会				●
13	鷺見 則幸	中野方地域協議会		●		
14	樋田 一成	笠置地域協議会				●
15	永野 司	東野地域協議会			●	
16	夏目 廣美	恵那市農業委員会			●	
17	西村 貢	岐阜大学地域科学部教授	審議会会長			
18	野田 光子	公募委員				●
19	平井 茂	飯地地域協議会	○			
20	古山 真実	恵那市PTA連合会母親委員会				●
21	堀 鑛	恵那市恵南商工会			●	
22	丸山 朝夫	明知鉄道株式会社		●		
23	三宅 明	串原地域協議会			●	
24	三宅 毅明	三郷地域協議会			●	
25	宮澤 博光	岩村地域協議会			●	
26	宮地 政臣	恵那市社会福祉協議会	●			
27	村上 千枝子	公募委員	●			
28	山本 和男	恵那市民生委員児童委員協議会	●			
29	山本 好作	恵那商工会議所			●	
30	渡邊 鉦文	武並地域協議会				●
計			7	6	9	7

◎：部会長、○：副部会長、●：部会員